

貧困によって生じる日本の教育格差

社会・国際学群国際総合学類 菊地悠美

1 問題の背景

- 日本では7人に1人が相対的貧困
- 先進国の中で二番目に多い割合
- 一人親家庭で顕著
- 世帯収入と小学校6年生対象の学力テストの点数に相関関係が見られ、貧困が学力に影響を与えることが分かる。
- しかし、教育費が免除され、経済的負担はそこまで大きくないはずの義務教育の段階で、世帯収入が点数に影響を及ぼしている要因は一体何なのか。

ii 環境的要因

- 子どもへの教育支援の不足
→日本は他国と比較して教育における公的支出割合が圧倒的に低く、私費に頼っているということが格差を助長している
- 非認知能力育成の阻害
→経済的な不安定さが、家庭環境の不安定さを生み出している傾向がある。それによって非認知能力の育成が阻害されている。
※非認知能力...ひとつのことに強く取り組む力、内発的に物事に取り組もうとする意欲。この能力が学力に差を与えるという研究結果がある。
- オンライン学習についていけない
貧困家庭では経済的余裕がなく、ICTに触れる機会が少ないため、このような問題が起きやすい。

5 貧困による教育格差がなぜ問題か

- 貧困家庭子ども本人の精神的苦痛
- 非認知能力が十分に育成されなかったことにより、学力そのもの以前に学習に対する意欲や集中力が欠如してしまっている。
- 進学したくても経済的な課題によりあきらめざるを得ない。
- 少子高齢化社会で貧困の連鎖が続いた場合、労働力は減少してしまうにも関わらず、社会保障を受ける人数は増加してしまう。

6 他国との比較

- 塾は東アジア特有の存在。日本は学校外教育が盛んで、それによって所得格差による教育格差が生じていると考えられる。
- アングロサクソン諸国は旧型奨学金が充実している。一方、日本では将来の返済が困難な貸与型奨学金が多くの割合を占めており、給付型奨学金の割合が低い
- 相対的貧困が深刻なアメリカと比較すると、高等教育段階での公的支出割合が同じであるのに対し、就学前教育段階では日本と圧倒的な差がある。この差が非認知能力に差を生み、アメリカで革新的な開発者を多く輩出している要因だと考えられる。

2 貧困による教育格差の原因

i 経済的要因

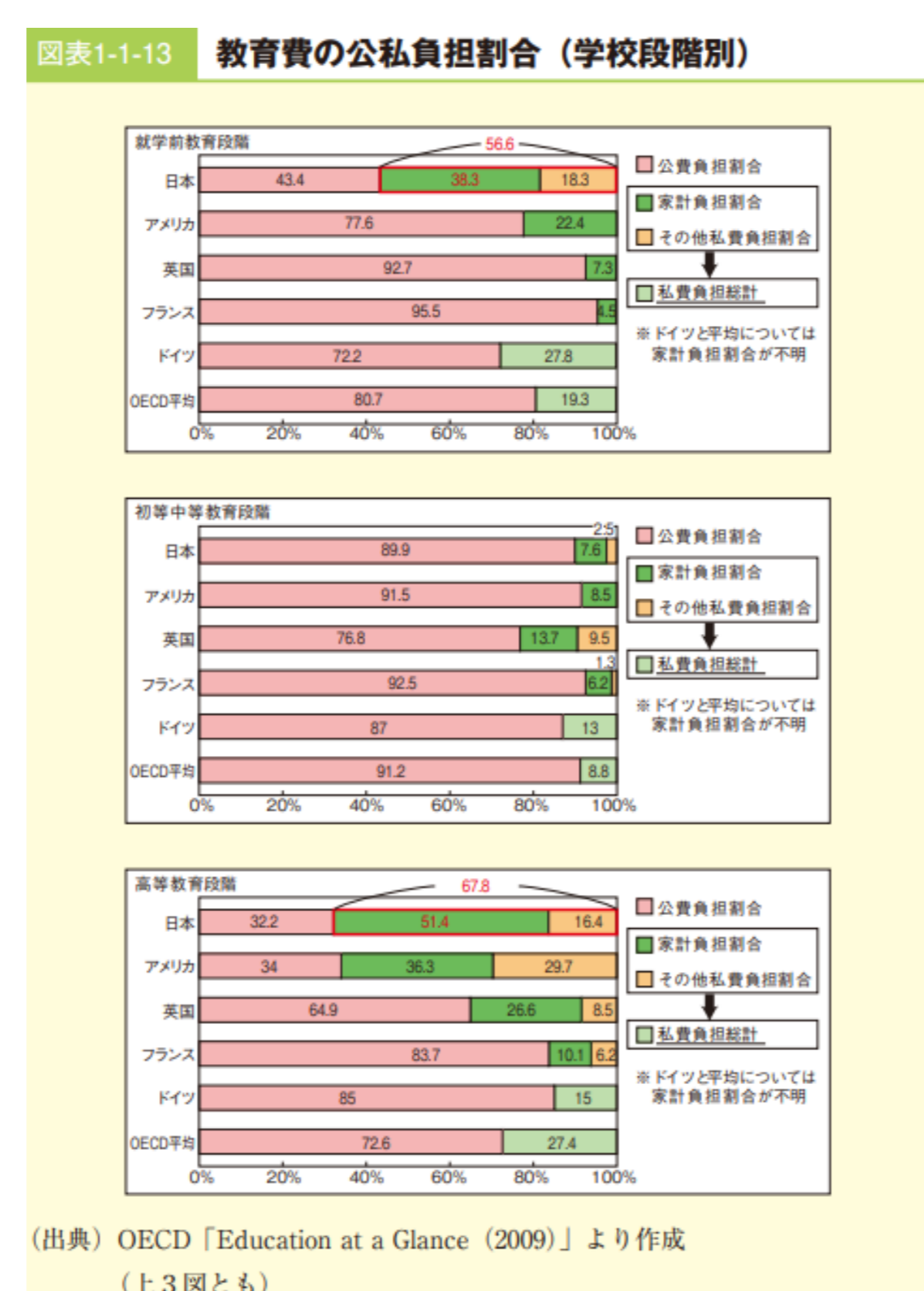
- 進学を諦めてしまう
→学費が払えない、給付型奨学金が充実していないことが原因
- 学力低下、学習意欲の低下
→塾や家庭教師などの学校外教育を受ける機会が得られないことが原因
- 体力低下
→スポーツクラブなどに所属する金銭的余裕がないことや、朝食の欠食が原因

7 問題解決のための提案

- 就学前教育段階の公的支出を増やし、特に非認知能力などの公平な育成を目指し、義務教育段階において学習におけるハンデを生まないよう努める。
- 給付型奨学金受給条件を緩和し、充実させる。
- 学校外教育バウチャー制度を採り入れ、貧困であっても学校外教育やスポーツの機会を得られるような体制を整えていく。

3 日本の公的支出割合

- 義務教育は他国と同様の割合であるのに対し、就学前、高等教育段階での公的支出割合が圧倒的に低く、家計に頼っている。
- しかし非認知能力が発達するのは3、4歳であり、就学前の教育は義務教育と同様に重要である。
- 現在の日本の高等学校進学率は100%に近いが、なお、公的支出割合が低く、家計に大きな負担を与えている。



8 結論

- 公的支出によるサポートが教育格差は正にもっとも効果的
- 経済的な余裕のなさそれ自体だけが問題ではなく、それによる親の精神的や時間的余裕がなくなってしまう環境が、子どもの能力に大きく影響を与える。
- 学校外教育が格差を助長している原因であるため、学校外教育バウチャーを採り入れることで解消することができる。

4 貧困という環境がもたらす影響

- 経済的、精神的、時間的に余裕のない保護者が子どもとのコミュニケーションを十分に確保できない傾向がある。それによって学力に差を与えるという結果が出ている非認知能力の発達に影響を及ぼしてしまう。
- 貧困が深刻な家庭では、栄養のある食事が採れなかったり、親からの愛情を満足に受け取れていなかったりすることが非認知能力未発達につながり、学力、健康状態を脅かしている。

引用文献・参考文献

- ポール・タフ 高山真由美訳 (2017)『私たちは子どもに何ができるのか 非認知能力を育み、格差に挑む』
- 松田恵示他(2020)『子どもの貧困とチームアプローチ』
- 橋本俊詔(2017)『子ども格差の経済学』
- 佐藤滋(2017)「東北学院大学社会福祉研究所研究叢書」『教育から日本の格差と貧困を考える—県内私立大学生へのアンケート調査から見えてきた奨学金問題—』
- 松村智史 (東京都立大学)子どもの貧困対策における「学習支援によるア」概念・モデルの考察—教育、福祉、居場所の意義に着目して—
https://www.jstage.jst.go.jp/article/taikaip/79/0/79_250/_pdf/-char/ja
- 石原 暢; 富田, 有紀子; 平出, 耕太; 水野, 眞佐夫 日本の子どもにおける貧困と体力・運動能力の関係
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/59471/4/AA12219452_122_93-105.pdf